

大学・高専機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）  
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

Table with 5 columns: 測定年度, 大学名, 学校コード, 学部区分, 改組内容. Row 1: 令和5年度, 福島大学, F107110101273, 国立, 研究科等の設置・増員・学部等の設置・増員（一般枠）. Row 2: 令和5年度, 福島大学, F107110101273, 国立, 学部等の設置・増員・学部等の設置・増員（一般枠）.

1. 年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上掲：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下掲：教育現場の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。  
当初計画の変更又は追加の取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。  
計画の進捗状況や実施経緯等取組内容等、自己評価及び下掲の場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通り実施できず、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

Main table with 4 columns: 事業計画, 取組状況, 自己評価、課題（理由）とその対応. Rows are organized by year (令和5年度 to 令和14年度) and include details on student enrollment, faculty hiring, and program implementation for various departments like Information Systems and Information Engineering.

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	福島大学
-------------	-------	-----	------

2. 申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学  

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学  

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学  

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学  

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学  

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

3. 申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。  

確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック
- ② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。  

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）  

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。  

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑤ 計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。  

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）、を含む。）、（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学期において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。  

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。  

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑧ 教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例校）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）  

既設の情報系分野に係る研究科等を有する	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
---------------------	--
- ⑨ 機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。  

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑩ 計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。  

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑪ 国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時まで他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。  

計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
-----------------------	--
- ⑫ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。  

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑬ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。  

認定を受けている、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
認定を受ける計画が進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	福島大学
-------------	-------	-----	------

⑤ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
--------------------	--

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
データサイエンス教育の一環として、福島市など自治体との連携した地域課題解決のための実践型演習（例えば、データサイエンス実践演習）を実施している。その中で、自治体から提供された実際のデータを分析し、最終的には学生グループから福島市長に対する政策提言「市長プレゼン」を実施している。今後は、これらの実践型演習を更に発展させ、後進学生に対する指導・助成を含めて大学院生を積極的に参加させることで、「課題型応用の実践力」を有した高度情報専門人材育成の充実に資する。 また本学では、福島県の現実課題に対応する研究を「FORプロジェクト」として大学をあげて推進している。その中で、情報人材育成の基盤となる「福島型STEAM教育の創拓」では、福島県内小企業家同友会との協議を重ねながら、プロジェクトを遂行している。本取組では、これらプロジェクトに大学院生を参加させることで、大学院生の実践力養成と、後に続く人材の裾野拡大をあげて推進する。 さらに、大手情報通信企業と連携し、令和5年度から情報人材育成の一環として「大学院進学者を対象とした給付型奨学金制度」を開設した。	データサイエンス教育の一環として、実践型演習（データサイエンス実践演習）では、福島市と連携して、実際の課題やデータに基づき政策提言・施策立案に取り組み、福島市長への報告会を実施した。 福島大学のRプロジェクト「福島型STEAM教育の創拓」では、福島県立福島高等学校の探究活動中発表会への大学院生派遣、福島県立あさか開成高等学校との交流会などを実施した。 大手情報通信企業との連携による「大学院進学者を対象とした給付型奨学金制度」の運用を開始し、R5年度は5名に奨学金を給付した。	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
福島大学の全学的な取り組みとして、「福島市子どもの夢を育む施設ごむむ」と連携し、小中学生の科学理解増進と本学学生の教育成果を発信することを目的に「サイエンス屋台村」を実施してきた。共生システム理工学研究科教員と大学院生・学類生が、地域の子ども達に実験・実演を楽しく体験させる「屋台」を開き、自然科学系に対する子供の興味増進に寄与してきた（新型コロナウイルス感染症で中断したが、5期移行に伴い令和5年度から再開予定）。本取組では、情報系分野の「屋台」を拡大・拡充する予定である。 また、SSH（後継事業含む）指定校に、共生システム理工学研究科の大学院生を派遣し、高校生による研究発表に対する助言・指導に寄与する取組を実施してきた。高等学校から好評を得ており、本取組では、情報系大学院生の派遣を積極的に強化する。	小中学生の科学理解増進と本学学生の教育成果を発信することを目的とした取り組みとして、「福島市子どもの夢を育む施設ごむむ」と連携して、福島大学わむむJr.カレッジ（2023年8月）を実施した。その中で、子供たちへの説明や実演に本学の大学院生が参加した。 福島県立福島高等学校SSH事業「福島大学探究訪問（2023年10月）」に際して、福島大学の大学院での学び等に関する高校向けのレクチャーや質疑応答役として本学の大学院生が寄与した。	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
令和4年度入試（令和6年度実施）において、学士課程（共生システム理工学類）総合型選抜で、将来、理系の教育に関する職に従事することを志す女性志願者を対象とする「理系教育女性人材育成枠」を設け、進路実現に向けた検討・準備を実施した。 また、入学料負担を軽減し、博士課程への進学意欲を損なわないようとするため、博士前期課程進学時の入学科免除を前提とした「高等専門学校編入推薦入試」を実施する予定である。 大学院入試では、社会人特別選抜を実施しており、学歴だけでなく実務経験等の個別審査により出願資格を認定する制度を運用している。さらに、社会人や他分野出身の情報工学領域への転換を支援する「情報工学リスティングプログラム」を実施し、転換科目群の履修による単位を一定の範囲内で博士前期課程の修了に必要な単位数に含めることを認めることで、社会人の志願者取り込みを図る。	学士課程（共生システム理工学類）総合型選抜において、将来理系の教育に関する職に従事することを志す女性志願者を対象とする「理系教育女性人材育成枠」を設け、進路実現に向けた検討・準備を実施した。 高等専門学校からの編入学生が大学院に進学する場合の入学科を減免する制度について検討した。高等専門学校卒業見込み者を対象とする既存の編入推薦入試に関わる支援制度として整備する方向で検討している。 大学院入試では、社会人特別選抜を実施しており、学歴だけでなく実務経験等の個別審査により出願資格を認定する制度を引き続き運用している。また、社会人や他分野出身学生の大学院における情報工学領域への転換を支援する情報工学リスティングプログラムについて、実施に向けた検討を行った。	

④ 他の大学（外国大学を含む）、高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
福島工業高等専門学校と「友好協力及び学術交流に関する協定」を締結し、産学人材育成の共同事業など、研究・教育両面で連携してきた。また、同高専から共生システム理工学類への編入学生を継続的に得ており、学生の目標を含めて強い関心を有する。本取組では、大学院進学希望者を対象とした「高専編入学推薦入試」を新設し、高専・学士課程・大学院の接続を促した連携強化を進める。 また、ACF（アカデミア・コンソーシアムふくしま）や科目同等履修制度を活用した地域大学との学生の相互連携を実施してきた。今後は、情報系授業科目への学生受け入れを強化し、本取組の成果を積極的に地域還元する。 加えて、共生システム理工学類/研究科では、海外の大学との学生相互派遣を積極的に実施している。一例として、コロナ禍立大学との連携協定に基づき、学生の現地派遣・福島大学への受け入れを展開してきた。東日本大震災以降、環境放射能に関する派遣及び受け入れ実績をあげてきた。高度情報専門人材育成事業では情報系領域での連携を強化する。	R5年度は、高等専門学校からの編入学生6名が入学した。また、福島工業高等専門学校との「友好協力及び学術交流に関する協定」に基づき、産学人材育成の共同事業など、研究・教育両面で引き続き連携している。さらに、高専・学士課程・大学院の接続を考慮した施策として、高等専門学校からの編入学生が大学院に進学する場合の入学科を減免する制度について検討した。 ACF（アカデミア・コンソーシアムふくしま）や国際共修（ICL-Channels）の単位互換制度による特別聴講生（単位互換学生）として、R5年度は、7名の学生を受け入れた。また、コロナ禍立大学との連携協定に基づいて、R5年度は、同大学から4名の特別聴講生を受け入れた。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	福島大学
-------------	-------	-----	------

2. 申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学  

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学  

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学  

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学  

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学  

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

3. 申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たした大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。  

確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック
- ② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。  

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）  

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。  

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑤ 計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。  

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）、を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学期において、コース等の募集人数を明記する計画であること。  

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。  

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑧ 教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例科）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）  

既設の情報系分野に係る研究科等を有する	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
---------------------	--
- ⑨ 機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。  

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑩ 計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。  

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑪ 国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時まで他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。  

計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
-----------------------	--
- ⑫ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。  

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑬ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。  

認定を受けている、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
認定を受ける計画が進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	福島大学
-------------	-------	-----	------

⑤ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
--------------------	--

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できず、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
データサイエンス教育の一環として、福島市など自治体との連携した地域課題解決のための実践型演習（例えば、データサイエンス実践演習）を実施している。その中で、自治体から提供された実際のデータを分析し、最終的には学生グループから福島市長に対する政策提言「市長プレゼン大会」を実施している。今後は、この実践型演習を更に発展させ、後進学生に対する指導・助成を含めて大学院生を積極的に参加させることで、「課題型応用型の実践力を有した高度情報専門人材育成」の充実に資する。 また本学では、福島県の現実課題に対応する研究を「forプロジェクト」として大学をあげて推進している。その中で、情報人材育成の基礎となる「福島型STEAM教育の創出」では、福島県中小企業家同友会の協議を重ねながら、プロジェクトを遂行している。本取組では、これらプロジェクトに大学院生を参加させることで、大学院生の実践力養成と、後に人材の裾野拡大を合わせて推進する。 さらに、大手情報通信企業と連携し、令和5年度から情報人材育成の一環として「大学院進学者を対象とした給付奨学金制度」を開設した。	データサイエンス教育の一環として、実践型演習「データサイエンス実践演習」では、福島市・南相馬市と連携して、実際のデータを基に自治体が発する課題の分析と政策提言を行った。 福島大学forプロジェクト（福島型STEAM教育の創出）から活動継承したプロジェクト研究所「STEAM研究所」の取組の一環として、基礎教育科目「STEAM実践学修」における学生への助言等に大学院生を参加させるなど、実践力養成に努めた。 大手情報通信企業との連携による「大学院進学者を対象とした給付奨学金制度」を引き続き運用し、R6年度は10名に奨学金を給付した。	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
福島大学の全学的な取り組みとして、「福島市子どもの夢を育む施設ごっこ」に連携し、小中学生の科学理解増進と本学学生の教育成果を発信することを目的に「サイエンス屋台」を実施してきた。共生システム理工学研究科教員と大学院生・学類生が、地域の子ども達に実験・実演を楽しく体験させる「屋台」を開き、自然科学系に対する子供の興味増進に寄与してきた（新型コロナウイルス感染症で中止したが、5期移行に伴い令和5年度から再開予定）。本取組では、情報系分野の「屋台」を拡大・拡充する予定である。 また、SSH（後継事業含む）指定校に、共生システム理工学研究科の大学院生を派遣し、高校生による研究発表に対する助言・指導に寄与する取組を実施してきた。高等学校から好評を得ており、本取組では、情報系大学院生の派遣を積極的に強化する。	小中学生の科学理解増進と本学学生の教育成果を発信することを目的とした取り組みとして、「福島市子どもの夢を育む施設ごっこ」に連携して、福島大学わくわくフェスティバル（2024年8月）を実施した。この中で、子供たちへの説明や実演に本学の大学院生が参加した。 日本大学東北高等学校の「大学探究訪問」（2024年8月）において、福島大学での学び等に関する高校向けの説明や質疑応答役として本学学生（大学院進学者希望の学士課程学生）が寄与した。	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
令和5年度入試（令和6年度実施）において、学士課程（共生システム理工学類）総合型選抜で、将来、理系の教育に関する職に従事することを志す女性志願者について、32名の募集人員のうち最大8名を優先して合格とする「理系教育女性人材育成枠」を設ける。（予告済み） また、入学負担を軽減し、博士課程への進学意欲を損なわないようとするため、博士前期課程進学者の入学料免除を前提とした「高等専門学校編入推薦入試」を実施する予定である。 大学院入試では、社会人特別選抜を実施しており、学歴だけでなく、専門的実務経験等の個別審査により出願資格を認定する制度を運用している。さらに、社会人や他分野学生の情報工学領域への転換を支援する「情報工学キャリアアッププログラム」を実施し、転換科目群の履修による単位を一定範囲内で博士前期課程の修了に必要な単位数に含めることを認めることで、社会人の志願者取り込みを図る。	学士課程（共生システム理工学類）入試において、将来理系の教育に関する職に従事することを志す女性志願者を対象とする「理系教育女性人材育成枠」を設けた総合型選抜を実施した。 高等専門学校からの編入学生が大学院（共生システム理工学研究科 博士前期課程）に進学する場合、進学者の入学料を免除する支援制度を整備し、R7年度「高等専門学校対象推薦入試」（R6年度実施）から適用を開始した。 大学院入試では、社会人特別選抜を実施しており、学歴だけでなく、専門的実務経験等の個別審査により出願資格を認定する制度を引き続き運用している。また、社会人や他分野出身学生の大学院における情報工学領域への転換を支援する情報工学キャリアアッププログラムの実施体制や課題等について検討した。	

④ 他の大学（外国大学を含む）、高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
福島工業高等専門学校と「友好協力及び学術交流に関する協定」を締結し、産学人材育成の共同事業など、研究・教育両面で連携してきた。また、同専科から共生システム理工学類への編入学生を継続的に得ており、学生の目標を含めて強い関わりを有する。本取組では、大学院進学者希望者を中心とした「高専編入推薦入試」を新設し、高専・学士課程・大学院の接続を含めた連携強化を進める。 また、ACF（アカデミック・コンソーシアムふくしま）や科目等履修制度を活用した地域大学との学生の相互連携を実施して、今後は、情報系授業科目への学生受け入れを強化し、本取組の成果を積極的に地域還元する。 加えて、共生システム理工学類/研究科では、海外の大学との学生相互派遣を積極的に実施している。一例として、コロンビア大学との連携協定に基づき、学生の現地派遣・福島大学への受け入れを展開してきた。東日本大震災以降、環境放射能に関する派遣及び受け入れで実績をあげてきた基盤を活かし、高度情報専門人材育成事業では情報系領域での連携を強化する。	R6年度は、高等専門学校からの編入学生3名が入学した。また、福島工業高等専門学校との「友好協力及び学術交流に関する協定」に基づき、産学人材育成の共同事業など、研究・教育両面で引き続き連携している。加えて、高専・学士課程・大学院の接続を考慮した施策として、高等専門学校からの編入学生が本学大学院に進学する場合の入学料を免除する支援制度を整備し、R7年度「高等専門学校対象推薦入試」（R6年度実施）から適用を開始した。 R6年度は、科目等履修生として5名の学生を受け入れた。また、マレーシアの情報系学会（IEEE Computer Society）幹事団を福島大学に招き、学生の相互派遣を含めた協力の可能性について議論した。	























大学名	福島大学	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

### 3-3. 学士課程

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	945	945	985																	
		入学者数	人	1,012	998	1,069																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***	***																	
		入学者数	人	***	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	945	945	985	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	1,012	998	1,069	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.07	1.06	1.09	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	収容定員等	収容定員(C)	人	3,840	3,840	3,880																	
		編入学定員	人	30	30	30																	
		在籍者数(D)	人	4,093	4,111	4,230																	
		編入学者数	人	39	30	26																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.07	1.07	1.09																	

### 4. 外部資金の状況（全学）

年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円	924,896	1,377,972																		

#### 特記事項

○理工学群 共生システム理工学類 情報理工学コース及びメカトロニクスコースは、入学定員を入学者数とみなし、各コースの定員数にて回答した。これらのコースについては、令和7年度入学生から2年次(コース配属となるため、在籍者数も同様に、令和7年度入学者数とみなし回答した。また、各コースの女子学生数及び留学生数は、学類全体の入学者数の女子学生及び留学生の割合から算出した。  
 ○共生システム理工学研究科 共生システム理工学専攻 数理情報システムコース及び物理・メカトロニクスコースの「その他の学期」の入学定員0人とは、若干名を意味している。同様に、情報系組織における博士課程・修士課程及び、大学全体における博士課程・修士課程の「その他の学期」の入学定員0人も、若干名を意味している。